

会 議 録

会議録	令和7年度 第4回豊田市公共交通会議
次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 藤岡地域バスのダイヤ改正について〈協議〉 (2) (次期) 豊田市地域公共交通計画の策定について〈協議〉 (3) 地域公共交通確保維持改善事業計画変更申請について〈協議〉 (4) 地域バスのバス停新設等について (区域運行) 〈報告〉 3 連絡事項 4 閉会
日 時	令和8年2月6日(金) 午後2時～午後3時30分
場 所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室
出席者 (敬称略)	【委 員】松本 幸正 (名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授)【副会長】 山岡 俊一 (豊田工業高等専門学校環境都市工学科教授) 勝野 隆 (豊田市高齢者クラブ連合会副会長) 釘宮 順子 (豊田市ボランティア連絡協議会会長) 山岡 正博 (豊田商工会議所専務理事)【監事】 高井 勇輔 (名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当課長) (代理 内藤) 後藤 泰之 (名鉄バス株式会社首席交通企画官兼運輸本部地域交通部地域交通課長) 横田 太 (豊栄交通株式会社専務取締役) 寺澤 秀樹 (愛知環状鉄道株式会社運輸部次長兼企画管理課長) 小島 康史 (愛知県タクシー協会豊田支部長) 小林 裕之 (公益社団法人愛知県バス協会専務理事) 中村 雄太 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会幹事) (代理 毛利) 原田光一郎 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官) (代理 山田) 石屋 義道 (愛知県都市・交通局交通対策課担当課長) (代理 竹之内) 加藤 正治 (愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課長) 松岡 孝嗣 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所管理課長) 岡本 重之 (愛知県警察豊田警察署交通課長) (代理 平野) 中村 浩二 (愛知県警察足助警察署交通課長) (代理 加藤) 鈴木 学 (豊田市副市長)【会長】 加藤 昭男 (豊田市都市整備部長) 【欠 席】三宅 利幸 (豊田市区長会理事) 後藤 哲也 (社会福祉法人豊田市社会福祉協議会常務理事) 堀 裕樹 (国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所計画課長) 【事務局】豊田市 都市整備部 交通政策課 地域活躍部 藤岡支所
資 料	1 次第 2 令和7年度 第4回豊田市公共交通会議 会議資料

(1) 藤岡地域バスのダイヤ改正について〈協議〉

○事務局 【案件1】に基づき説明。

○議長 今回のダイヤ改正の原因は、これまで労働時間が長かったことによるものなのか。
○事務局 運行事業者より、遅延が発生すると連続運行時間が上限を超える可能性があるかと相談があった。これをきっかけにダイヤを見直し、今回の改正に至った。

○議長 川口・飯野線については、利用者がどれほどいるのか。
○事務局 利用者はほとんどいない。不定期な利用はあるが、定期的な利用者はいない。

○委員 これからますます高齢化が進み、新たな課題も出てくると思われる。その都度、状況に応じた対策をしっかりと検討してほしい。
○事務局 藤岡地区は、藤岡中学校区と藤岡南中学校区に分かれている。
北側である藤岡中学校区は高齢化が進んでいる一方、藤岡南中学校区の地域については人口増加が著しい地域となっている。小学生の数は、市内75校のうち、児童数が8番目に多い。対して、藤岡中学校区は高齢化が進み、子どもの数も減少傾向にある。藤岡地区の地域バスはこのように両極端な地域を抱えているため、今後見直しを行う際は、そのような地域性を踏まえて検討していく。

<協議結果：承認>

(2) (次期) 豊田市地域公共交通計画の策定について〈協議〉

○事務局 【案件2】及び豊田市地域公共交通計画冊子に基づき説明。

○委員 計画冊子の「評価指標・確認指標」について、乗車1回あたりの財政負担額を評価指標ではなく確認指標に変更したということだが、確認指標として、どのように活用予定なのか。

○事務局 評価指標に設定することにより、財政負担額によって路線の良し悪しを評価し、場合によっては減便や廃止につながりかねないという懸念の声があった。市としても、全国的に運行経費が増加する中で、単純に財政負担額のみで評価することは考えていないため、表現を確認指標に修正した。確認指標とすることで、毎年度路線の運行収支率を確認し、増減の分析等は行っていく。一方で基準値を設けず、その収支率のみをもって、ただちにバス路線の再編を判断するものではないと考えている。
また、高校生の通学定期券購入補助やおでかけパス70など利用促進策を実施しており、今後も様々な利用促進策を検討していく中で、運行収入の一部が減少することも想定される。収支率を追いかけすぎると、このような別の効果を生む事業も継続しにくいことになるため、評価方法を見直すことにした。

○議長 おでかけパス70購入者へのクーポン券の配布事業は、施策の効果や利用者の意見などを分析しているのか。また、高齢者の外出しやすくなるよう取り組んでほしい。

○事務局 クーポン券の配付事業については、昨年11月から先月まで期間限定で実証的に行っているものであり、効果についてはまさにこれから分析するところである。取りまとめ後、公共交通会議の場でも報告する。この事業の狙いの一つとして、今までバスを利用してこなかった人に対して、一度利用してもらうきっかけをつくることで、バス利用の外出を増やすことにある。
今後、成果を整理した上で、来年度以降の事業に反映していきたい。

○委員 まだ免許返納に抵抗感がある高齢者も多い。より高齢者が利用しやすくなるような事業、制度を期待している。

○委員 高齢者向け定期券は素晴らしいものと思うが、高齢者の移動の実状としては、家から最寄りのバス停までが遠く、そもそも家から出かけることが大変という人も多くいる。そうした人も利用しやすくなる制度があるとよいが、今後どのように高齢者など移動手段を確保していく考えであるか。

○事務局 基幹交通は幹線軸として、地域内交通は基幹交通に接続する補完的なものとして、それぞれ幹や枝のような役割がある。高齢者の移動で、バス停まで歩くことができない人に対しては、デマンド交通のようなドア to ドアの移動手段の需要があることは認識している。市としては、幹線となるおいでんバスを今後も維持しつつ、地域内の多様な需要に対しては地域内交通で対応したいと考える。デマンド交通や共助交通などを活用し、それらの需要に対応していきたい。

○委員 豊田市にはトヨタ自動車があり、車に関する先端技術が集まっている。
しかし、その割に自動運転の実証実験の取組が遅れていると感じる。自動運転の導入をさらに進め、今後中山間地でも拡大できるようになれば、共助交通がなくとも移動

- 事務局 手段の確保ができる。そうした豊田市の強みを出して施策を進めていただきたい。
先進技術の取組については御指摘のとおりで、次期計画の目指す姿や基本方針に、しっかり次世代モビリティ社会の実現と位置付けている。
今月から開始した自動運転の実証では、おいでんバス「土橋・豊田東環状線」のルート上で運行を行い、将来の路線バスの自動運転化を見据えた取組である。
山間部での自動運転については、現時点で取組はないが、今回の実証では、住宅街でデマンド形態の自動運転も実証しており、今後、取組を山間部まで展開できればよいと思う。

<協議結果：承認>

(3) 地域公共交通確保維持改善事業計画変更申請について〈協議〉

- 事務局 【案件3】に基づき説明。

- 委員 意見無し

<協議結果：承認>

(4) 地域バスのバス停新設等について〈報告〉

- 事務局 【案件4】に基づき説明。

- 委員 今後移設などを行うバス停については、地域住民への周知はどのように行うのか。
○事務局 今回の変更はかなり限定的なエリアで、ある程度利用者也特定されている。利用者に直接御案内することになれば、当該自治区への説明、家庭への回覧などで周知を行う予定である。

- 議長 すでに移設しているバス停もあり、報告に時間差があると思われるが、何か理由があるのか。

- 事務局 区域運行のバス停については、毎年2月の会議でその年度分をまとめて報告しているためである。

以上